

がま研
かわらぬ旅



第10号
平成17年3月1日
発行
筑波山がまの油売り口上研究会

第二の人生は

大川 ちよの

三十八年間の公務員生活にピリオドを打つ時期を間近に控え、「がま口上」をやっていたよかったですと思う今日この頃です。

よく、「退職後何をするの？」と聞かれますが、私は、「がま口上」を通してボランティア活動をしたと考えています。また、がま口上研究会の皆さんと知り合いになり、志を同じにする仲間が多勢いるということは、この上ない幸せであり、大きな財産でもあります。

「がま口上」を始めた動機は、五年前に集落の敬老会で、年寄りの方に喜んでもらおうと始めたのがきっかけでした。最初は、口上を覚えるのが精一杯で、振り付けなどに気が回りませんでした。その後、林会長はじめ宇野先生の指導を受けながら、最近では、ようやく自分なりの「がま口上」ができるようになり、多少の自信も付いて来しました。

なお、昨年は、茨城県フラワーパークの『バラまつり』や、土浦市の霞ヶ浦総合運動公園で開催された『いばらき湖沼環境フェスティバル』などへ出演する機会を与えていただき、大

変勉強になり多少の自信もつきました。退職後は、時間的にも余裕ができると思えますので、練習を積み重ねてなんとか自分流のスタイルを見出し、ボランティア活動を続けていきたいと思っております。

最後に、会員の皆様これからも宜しくお願ひします。

四六のがま

みやもと しろろ



それは昔、筑波のお山の御幸ヶ原に、がま夫婦と男の子のがま吉が幸せに暮らしておりました。筑波のお山の紅葉が終わる頃には、常陸の里にも木枯らしが吹き始めます。男体女体を駆け回って遊ぶことの大好きながま吉は、冬になると大変困ることがあります。しもやけ・あかぎれがひどくて、外で遊ぶことができません。さて今日は、父さんがふもとの町まで、冬支度の買い出しに行きます。そこで、がま吉は父さんをお願いしました。

「父さん、僕にあったかい手袋を買って来ておくれ」そう言って、まっかなもみじのお金を二枚渡しました。

「日暮れまでには帰って来るぞ」

父さんは男女ノ川の川べりを一目散に駆け降りて行きました。ブレーキを掛けながらすべり降りて行くうちに、後足にブレーキ用の指が一本生えてきました。

「おっ、これは便利。」

すいすい、きゅ。すいすいきゅ。

西の空の夕映えが美しく染まる頃、大きな袋を背負って父さんが帰って来ました。がま吉はうれしくてたまりません。でも、父さんが袋から出してくれたまっかな手袋を見て、びつくり仰天。指が四本しかありません。

「ほんとだ。でもね、これはきつと、おまえのくれたもみじのお金が、一本ぶん虫食っていたんだらうね。」

父さんが笑って答えました。

それから、いくつもいくつも歳月が過ぎ、がま達も進化するうちに、筑波のがまには前足が四本、後足が六本になったとき。

風返峠のすすきの葉ずれの音を聞いてころん。しゅるるる四六四六。しゅるるる四六四六。確かに全部で二十本。帳尻は合っているけれど、なあーんだかな、合点のいかない四六のがまのつぶやきさ。

御案内

紙芝居原画(永井の兵助さんとガマの油)とがま口上使用の垂れ幕展

☆と き 平成十七年三月二十六日(土)～

四月三日(日)(月曜日は休館)

☆と ころ 新治村『小町の館』

主催 筑波山がまの油売り口上研究会 入場無料

二〇〇四 夏の初舞台

市村 文子

生涯きつと忘れることがないであろう・・・初舞台。「玉里村の大宮神社魔神祭」は、かけがえのない思い出の一日となりました。その日は光栄にも、大師匠・宇野先生と一緒の出演ということで、舞台設定や諸準備・段取り一切を、奥様にもお世話になりました。

準備完了！一回目の宇野先生の口上が始まりました。先生の演技を舞台の袖で真剣に見せて頂きながらも、次の自分の出番が気になって仕方がありませんでした。

いよいよ私の出番が来ました。踊りが大好きだった亡き母に祈るような気持ちで舞台の袖で出番を待つ私・・・

さあ始まりの曲が流れスタート！観客に交じって、奥様の心配そうなまなざしが見えるなか・・・高なる心臓の鼓動と緊張が汗となってどつと流れ出てきます。「ゆっくり・ゆっくり・・・」と、自分に言い聞かせながらの「さあさあお立ち会い」の第一声！口上のセリフばかりが先を急ぎ、あつと言う間に十数分の口上が終わったのでした。無我夢中のなかで「終わった」という安堵感と興奮を抑えながらも、宇野先生のアドバイスが脳裏に浮かび、聞いて下さったお客様に心からのおじぎをし、その瞬間、何とも言えない嬉しさが込み上げてきました。ガマ口上の縁にふれて三年目、夢の舞台に立てたことに感謝でいっぱいになりました。一人ではまだ何もできません。これからは、

お世話になった諸先生や諸先輩の皆様方のお手伝いをさせて頂きながら、舞台の設営や口上の奥の深さを学んでいきたいと思えます。この夏の私の挑戦

“初心をずうつと忘れずに・・・”

熱意あふれる練習会

口上講習会修了者を対象に本年度より計画されたがま口上の練習会。ベテランの向上の場として、又新人デビューを視野に入れた実践の場として、熱のこもった練習が続けられています。覚えることから一歩踏み出すためにどうぞお出かけください。次回は

3月26日午後1:30～

総会のため時間が変更になります。



お客さんに喜ばれた一年間

茨城県フラワーパーク

成島 幸吉

県外からの来園者が多いため何か郷土の文化を、郷土の芸能を見せたいということから、「筑波山ガマの油売り口上」を研究会の皆さん

に出演をお願いし、フラワーパークの催事として実施いたしました。早いもので一年がたちました。

この間、バラやボタンなどのおまつりの休日に、一日二回を原則として、延べ十四人の出演と毎回何人かの介添いやお手伝いをいただきました。

フラワーパークでは、年間催事計画表やまつりに毎に発行するチラシ、ホームページ、新聞・ラジオなどを活用し、広く広報、宣伝に努めました。

日時の経過とともに、ガマ口上の問い合わせも多くなりました。

お客さんの要望が多く、十一時から午後二時までの間、三十分おきに出演していただいた日もありました。

出演いただいた方々は、風が強い日や雨の日など条件が悪いときも、持ち味を発揮し、熱演してくださいました。本当に、ありがとうございます。

ガマ口上は、はじめてというお客さんもおられました。当研究会の林会長作による現代版口上は分かり易く、好評でありました。十五〜二十分程度の演技は、長くもなく、短くもなく、当園のお客さんには、ちょうど良い長さでした。売店で売っている「軍中油 ガマの油」は、ガマ口上のある日はよく売れ、ガマ口上会場での販売にも協力いただきありがとうございます。

フラワーパークは、今年、開園二十周年を迎えます。一九八五年につくば科学博の記念公園

としてオープン以来、バラの公園として、多くの人々に愛され、支えられてきました。

現在、二十周年を区切りとして、新しいフラワーパークとして、生まれ変わるための準備を進めています。バラ園では、樹勢の回復、地力の回復（土壌の改良）などバラによい環境づくりやテラスのバラの植え替えを進めています。新たなバラ園の造成にも取り組んでおり、「香りのバラ園」、「新品種のバラ園」などが今年中に完成します。

トイレなども改修することとしており、花とみどりのさわやかな施設づくりに取り組んでいます。

十月の八日(土)、九日(日)、十日(月・体育の日)の十日三日間に、記念式典と記念催事を計画しています。

今年も研究会の皆様のご出演をお願いしております。フラワーパークを「ガマの油売り口上研究会」のホームグラウンドとして、活用いただける。フラワーパークに行けば「ガマ口上が開ける」というようになればと考えています。工夫をこらし、持ち味を發揮し、愉快で、楽しい口上を披露して下さい。

又、新人の方、デビュー前の方は、ご一報いただければ、いつでも場所と時間を設営します。練習の成果を試してください。デビュー戦は、是非当園でどうぞ。

昨年から立ち上げられた『がまの油売り口上研究会』のホームページ。

ホームページを覗いてみましょう

がま研ホームページアドレス

<http://members.jcom.home.ne.jp/gamaken/>

「がまの油売り口上研究会」で検索しても見つかります。

会員の泉修平氏が仕事の合間を縫って会の発展と口上普及のためにがんばって下さいました。

より良いページに成長するためには、会員の皆さんの多様なご意見やご要望、活動風景の写真などで更新してゆくことが不可欠です。ついでに関連する他のページを見るのも楽しく参考になります。メール又は、直接郵送でお届けください。



イベントのお知らせ

古河市桃まつり

3月20・21・26・27日

4月2・3日

各1日4回実演

茨城県フラワーパーク

ポタンまつり

4月24日・5月3日

バラまつり

5月29日・6月5日

11:30～, 13:30～

応援大歓迎!!

がま歌壇

ふくゆくと 香りただよう黄梅の

風うららかに 頬通り過ぐ

陽春に さそわれ咲きし紅梅の

芳香ただよう 富士見ゆる庭

ベランダに 凍て付き花の咲くとき

霜の結晶 朝光は染む

小宮山 明美 作